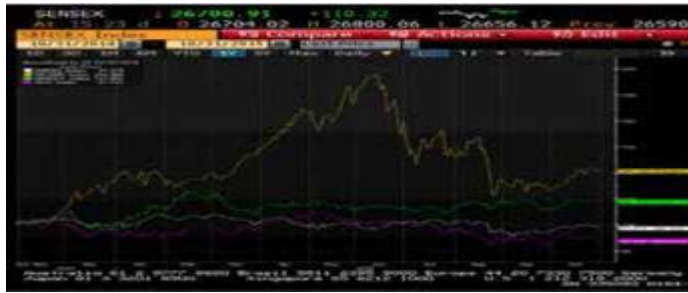


1年間の「BRICS」業績比較*

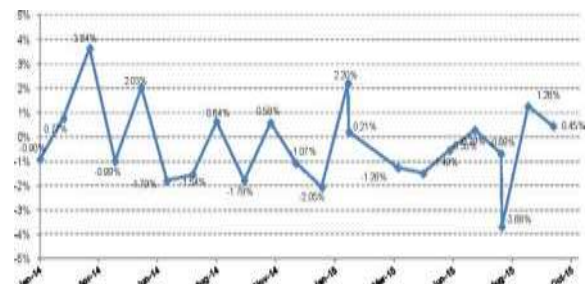
インドの「SENSEX (センセックス)」が「BRICS」で第3位に浮上 (1年)



降順 (2014年10月31日~2015年10月31日) : SHCOMP (上海総合指数)、INDEXCF (MICESX :モスクワ証券取引所)、BSE Sensex (ボンベイ証券取引所) & IBOVESPA (サンパウロ証券取引所)

INR (インドルピー) / USD チャート
2014年1月~2015年10月)*

INR/USD (月次) *



* 出典 : Bloomberg

** S&P

インド - 最も価値のある「国家ブランド」で世界第7位に上昇

最も価値のある「国家ブランド」においてインドは1つ順位を上げて世界第7位となり、ブランド価値は32% アップして\$21億に達しました。「BRICS」諸国の中でもインドは、ブランド評価において下落が見られたブラジル、ロシア、南アフリカとは異なり、ブランド価値が増大した唯一の国となりました

FPI (プライベート・ファイナンス・イニシアチブ) の純増 - 10月期に7か月ぶりの高値でUSD 34億4,000万に到達

外国人投資家による10月期のインド資本市場への投資額はUSD 34億4,000万に達し、これまでの7か月間で最高額を記録しましたが、これを支えたのが「RBI」(インド中央銀行)による金利引き下げと前向きなマクロ経済政策です。先月の「インド準備銀行」総裁のRaghuram Rajan氏による予想を上回る50bpsマイナスの6.75%への政策金利下げ発表によって市場が驚きに包まれたことを受け、投資家需要がポジティブに転換することとなりました

Moody's (ムーディーズ) によるインド銀行システムの見通しの、安定的への改善

グローバル信用格付け機関の「Moody's Investors Service」は、インド国内の銀行機関の経営環境が徐々に改善されつつあるとの理由から、インドの銀行システムの見通しをこれまでのネガティブから安定的へと引き上げることを発表しました。安定的だとする見通しですが、経営環境(改善途上)、アセットリスクと資本(安定的)、出資と流動性(安定的)、収益性と効率性(安定的)ならびに政府サポート(安定的)という5つの推進力に対する評価に基づくものです。経営環境について、同信用格付け機関は、インドが2015~2016年に約7.5%という記録的なGDP成長を遂げると見込んでいます。こうした成長ですが低インフレと段階的な構造改革実施が支えてきました。

最も魅力的な投資先であるインド : EY 調査

2015年3~4月に実施された「EY Survey This Survey--『Ready, set, grow: EY's 2015 India attractiveness survey (準備、設置、成長 : EY 2015年度インド魅力調査)』」によると、インドは今後3年間において世界屈指の魅力的な投資先にランキングされましたが、この調査では工業、自動車、顧客製品、ライフサイエンス、インフラ、テクノロジー、金融サービス等をはじめとする多様なセクターの多国籍企業に従事する500人以上の意思決定権者による見識も集められました。前年度の2014年の調査での成果と比較した主要なポイントとして、マクロ経済の安定性(2014年度:70%→2015年度:76%)、政治および社会的安定性(2014年度:59%→2015年度:74%)、「FDI」(外資直接投資)政策の緩和(2014年度:60%→2015年度:68%)ならびにビジネス推進にあたっての政府の取り組み(2014年度:57%→2015年度:67%)といった主要領域での認識の改善です。インド国内のビジネス実践にあたっての魅力的な数々特性の中で、投資家が最も高く評価しているのが巨大な国内市場と豊富な労働力です。

中国人民銀行(PBOC)が初めてインド政府債に投資

インド政府による外国投資家に係る規制緩和を受け、中国の中央銀行が初めてインド債券に投資を行いました。「中国人民銀行」はこのたび外国ポートフォリオ投資家(foreign portfolio investor)として「インド証券取引委員会」(SEBI)に登録し、すでに\$5億相当額の債券を購入したと推測されています。

インド - 外国人対象の債券規制を緩和

インドは外国人による債券保有に係る規制を緩和し、世界各地の資金がこれまで以上にアジア最優良の債券市場に流入することを期待しています。外国機関による政府発行の債券保有の金額はUSDではなくインドルピー建てとなり、上限が段階的に引き上げられ、2018年3月までには未償還債務の5%となります。「インド財務省」の見積もりによると、現時点での外国人保有高は全体の約3.8%で、引き上げに伴い、さらに\$182億相当額の投資を呼ぶ込むうえで効果的となるだろうと中央銀行が述べています。

CPI (消費者物価指数) & インフレ

価格モーメンタム(price momentum)の連続上昇に伴い、9月期の「CPI」(消費者物価指数)水準は8月期の3.74%から対前年比で4.41%を記録しました。コア・インフレ率は8月期の4.31%からじり高の4.34%に伸びました。好意的な底値に起因してこれまでに計上されたプラスですが、これによって完全に目減りし、今後の数字は北方向への軌道を描くことが予想されます。9月期の数値は全般的にコンセンサス予想通りでした。8月期の数字からは、3.66%という暫定的な予想が3.74%へと、わずかながら上方修正される結果となりました。価格モーメンタム(price momentum)は8月期の1%と比較して対前月比で0.5%の上昇となりました。連続的な伸びの大部分の原動力となったのが野菜(対前月比2.9%)と豆類(対前月比4.2%)でした。豆類の価格暴騰はかなり長い間にわたって継続することとなりました。豆類の輸入量増加、播種奨励に帰する「MSP」価格上昇、豆類の播種規模増は9月期末へかけて効果的となると思われ、さらなる急増を阻止するでしょう。サービス価格の暴騰は原油とディーゼルの価格下落を理由として輸送セグメントの縮小によって抑制されました。健康やパーソナルケアといったサービスは上向きが感じられました。サービス価格の高騰が物価への影響を示唆することはないものの、食品価格がこれを台無しにしてしまう可能性があります。インフレは「RBI」(インド中央銀行)が快適に感じる水準内で維持されることになると期待されます。

Disclaimers and Disclosures

UTI International (Singapore) Private Limited (以下「UTI IS」)は、シンガポール金融庁(MAS)の規制を受け、資本市場サービスライセンスを保有し、ファンドマネジメントに関する規制対象業務を行っています。UTI IS は、このようなレポートの完全性や正確性に関して、一切の責任を負わないものとします。レポートは、株式のオファーに相当するものではなく、推奨、意見の主張、広告でもありません。ステートメントの内容は、特別な目的、金融機関やこのステートメントを受け取る特定の人のための特別なニーズに関係なく、情報提供のみを目的としており、そのような人には、ファンドの株式の購入契約を行う前に、金融アドバイザーからのアドバイスを求めることをお勧めします。もしそのような人がそのようなことを行わなかった場合、その人はその投資が自分に適しているかどうかを慎重に考慮すべきです。ここで述べられているファンドの過去の業績は、将来的な業績を示唆しているとは限りません。

ここで説明されているファンドは、シンガポール金融庁(以下「MAS」)によって認められた制限された計画であり、機関投資家(用語は証券先物法(第 289 条)(以下「SFA」)で定義されている)および適格投資家(用語は証券先物法(第 289 条)(以下「SFA」)で定義されている)にのみ提供または販売されています。免責金融アドバイザーとして、UTI IS は、FAA の下、規則 33、34、35、36 または金融アドバイザー法(以下「FAR」)の他の規則に従って、「機関投資家」「適格投資家」「海外投資家」「シンガポール国民ではない」「シンガポール永住者ではない」「シンガポール国民または永住者に全てまたは一部依存していない」シンガポール国外に住む個人、またその他の例としては、シンガポールに商業拠点を置いていないまたは物理的に所在していない人)に関して対象となる免責に基づくことができます。

www.utifunds.com にアクセスしてください